

---

# 曲 目 解 説

---

10年目シリーズ Vol.1

## 1 打楽器合奏のためのオプティカル・ウェーブ

マリンバとヴィブラフォンを中心に演奏される音の波に、徐々に楽器が加わって次第に大きなうねりとなる。一旦波が引いた後、静けさの中から3+2+2+3のビートが聞こえ始め、これが再びに大きな波となって曲全体を包み、力強いクライマックスを迎える。本日はあまり演奏されることのない序奏をつけてのステージである。1992年の作品。

作曲者の松下氏は現代日本を代表する作曲家のひとりで、世界的なレパートリーとして定着した和太鼓協奏曲「飛天遊」、長野オリンピック文化プログラム・オペラ「信濃の国・善光寺物語」など数多くの作品がある。長野のアマチュア団体の指導や、ながの音楽祭の音楽監督を務めるなど長野とかかわりの深い作曲家である。

## 2 サーカス

この曲ではサーカスのもつ音や雰囲気、興奮やバイタリティを表現しようとしている。曲は6つの部分に分かれて、それぞれにタイトルが付いており、演奏者やリスナーがイメージを膨らませる助けとなる。「序奏」「空中ブランコ」「ライオン使い」「砲弾」「猿のおり」「フィナーレ」

作曲者S,レオナルドはイーストマン音楽学校の出身で、ピッツバーグ・シンフォニー・オーケストラのティンパニ奏者として活躍した。ソロティンパニや打楽器アンサンブル、ハンドベルのための曲を数多く作曲するほか、ペダルティンパニの教則本も書いている。

## 3 オンファロ セントリック レクチャー

この曲はスイスの画家パウル・クレー（1879～1940）の絵の印象から作曲された。絶えないオスティナート（一定の音形を繰り返し演奏すること）やリズムの交差と単純な旋律の変化にはアフリカ音楽の影響がある。通常4台のマリンバを使って演奏されるが、2台でアクロバティックに演奏されることもある。1984年の作品。

作曲者N,ウエストレイクはオーストラリアで活躍するクラリネット奏者、作曲は独学による。

## 4 人形の家のお話

人気のない古い洋館から壊れたおもちゃがかってに動く音がする。置き去りにされた人形達の叫び声が聞こえる。そんな不気味な雰囲気のする大作。タイゴングが効果的に使われて強いインパクトを与える。

作曲者I,マルタは1952年生まれハンガリー人。この曲は同じくハンガリーで活躍する打楽器アンサンブルグループ「AMADINDA」のために作曲された。1985年の作品。

## 5 レインボウズ

わかりやすい反復による音楽。単純な和音をビートを伴って演奏するだけでも耳には心地よいものだ、ということを感じさせてくれる。曲は3つの楽章に別れており、スコアの各楽章冒頭には、聖書に着想を得た作曲者の警鐘のコメントが付いている。

「雨」私は40日の間地球に雨を降らせよう。そして私が作り出した全ての創造物を地表から拭い去ってしまおう。「洪水」150日の間、水は地球上で氾濫した。「虹」雲間に虹が見える時には思い起こさなくてはならない。二度と再び洪水に全ての生命を奪わせてはならないと。1987年の作品。

## 6 バレエ音楽「ガイーヌ」より

ハチャトゥリアンの名曲「ガイーヌ」から4曲を抜粋。原曲はフルオーケストラによる華々しくかつ力強い演奏が一般的だが、さて打楽器アンサンブルによる「ガイーヌ」はどんなものになるのでしょうか。スプリンガーによる編曲はマリンバをはじめ鍵盤打楽器だけのアンサンブルであったが、本日はティンパニ、シンバル等の鳴り物を加えた、タム・アム・ラ独自のバージョンで演奏します。

